

国際感覚を身につけた、プロフェッショナルな人材を育成！

創価大学経営学部企画編集部

細田洋介（ほそだようすけ）経営学部経営学科 2019 年入学



経営学部は、「国際感覚を身につけた、プロフェッショナルな人材を育成」を掲げ、さまざまなプログラムを実施しています。今回は、創価大学経営学部を語る上では欠かせない“英語”について、経営学部2年生の細田さんに語っていただきたいと思います

英語に力を入れる経営学部に着かれたそうですね。

“グローバル・ビジネス・リーダー学修コース”に着かれましたね。昨今、ビジネス英語の需要はますます高まっていますよね。このコースは、ビジネス英語の基礎を徹底して学ぶことができ、「ビジネスと経営」を英語で学ぶ専門科目が4年間を通して設定されています。また、実際に海外のビジネス大学を訪問することがプログラムの中にある点も、私が着かれたところです。経営学部としても海外現地研修をカリキュラムのメインとしており、さまざまな海外の大学やビジネススクールから私たちは選択できます。一般に机上の講義はその15%程度しか記憶に残らないと言われていますが、実際に現場で体験したことは約85%を覚えているという報告がなされています。「学ぶ心に灯を灯す経営学部」ではないでしょうか。

なお、実際に海外の大学やビジネススクールに行かれた経営学部生の体験談が紹介されているので、ページ下部にあるURLからご覧ください。

どのような英語の授業が展開されるのでしょうか。

1年次に“Business English”を履修しますが、この授業は少人数のアクティブラーニングで行われます。先生もネイティブで、日本語は一切使用しません。授業の内容としては、実際のビジネスシーンで使われる言い回しを学習したり、ロールプレイングを行ったりします。ロールプレイングでは、たとえば企業の電話対応を英語で対応したり、商品開発の現場を英語で模擬訓練したりします。最初は不安でしたが、先生がしっかりサポートしてくださったので、安心して学ぶことができました。他にも、“Study Skills for Business”という授業があって、ここでは英語論文の書き方や読み方を学ぶことができます。現在は、“Global Business Communication”という授業を履修しており、より高度なビジネス英語を学んでいます。

細田さんにとっての“英語”をお聞かせください。

“武器”ですね。これからますます、国際競争力が求められる時代になっていくと思います。実際に国内企業でも、就職面接の際に英語力を問うようになってきたと聞いています。また英語は、世界の様々な人を繋ぐ“ツール”だと思っています。英語が話せれば、世界中の人とコミュニケーションをとることができます。机上の英語学習だけでなく、海外に実際に足を運んで、さらに自身の英語力を磨いていきたいと思っています。

1年生の時に2回もフィリピンへ行かれたそうですね。

はい、創価大学と交流のあるイースト大学とフィリピン大学に海外研修で行きました。どちらの

研修でもフィリピン人の友人をたくさん作ることができました。現地で英語のプレゼンテーションをたくさん行ったのですが、自身のプレゼン能力の低さに唖然としましたね。“言葉で伝えることの難しさ”を実感しました。日本に戻ってからは、英語への学習意欲がさらに高まりましたね。また両研修に参加して、将来、国際機関であるアジア開発銀行に入行し、発展途上国の経済発展に貢献するという目標ができました。私の周りにも、海外研修によってキャリアデザインに影響を与えられたという友人がたくさんいます。



研修に参加した後も何度かフィリピンに足を運び、友人と交流を重ねる細田さん

最後に受験生に向け、メッセージをお願いします！

創価大学のステートメントに“Discover your potential”という言葉があります。一人ひとりの学生に秘められた可能性を開きゆく大学という意味がこめられています。私は創価大学に入学して、英語という最大の武器を見つけることができ、海外で就職するという目標ができました。皆さんもぜひ創価大学に入学して、自身の可能性を開いていってください。

【グローバル・プログラム (GP) 体験談リンク】

<https://www.soka.ac.jp/business/feature/gp/voice/>